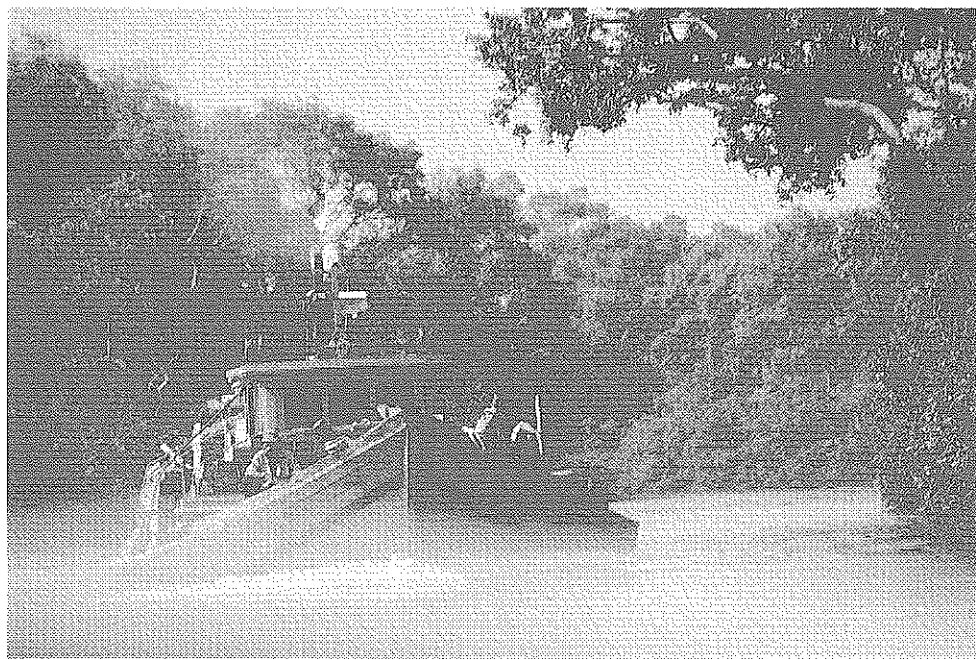


Save The Tropical Forests



森の通信

2005.12.20



▲ グリン・ベルン国立公園で違法伐採（カリマンタン、2005年10月）

CONTENTS

- 違法伐採と闘う「違法材取引とインドネシアの森林法」…… 3P
- ラミン材停止キャンペーン ② …… 8P
- ITTO は変わった（39回理事会報告）…… 11P
- 「ホルネオ島に行く」④ …… 12P
- 世界の森林ニュース …… 14P

公害で苦しんできた街だからこそ...



昨年10月、善法寺保育園に設置された「ひかひか発電所」の太陽光発電パネル

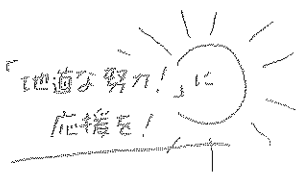
尼崎の市民団体

広がれ市民の太陽光発電

NPO法人「目標は2年で1カ所」

兵部順昭副市長で、つづいて広く市民を募集し、「2
 太陽光発電所を稼働させてい
 る市民団体、ある。この市民
 発電プロジェクトが、尼崎、
 養老のNPO法人化を目標とし
 し稼働を期し、法人化による
 尼崎の市民団体、つづいて
 太陽光発電所を稼働させてい
 る市民団体、ある。この市民
 発電プロジェクトが、尼崎、
 養老のNPO法人化を目標とし
 し稼働を期し、法人化による

た尼崎市で、市民による自
 然エネルギー普及の取組
 みが加速した。
 同プロジェクトは、原
 力の関心を高めているとい
 う。法人化は、多くの出資を
 集めたり、社会的信用を高
 める狙い。行政と連携して
 学校などの公共施設を利用
 する。03年2月、市
 民の出資100万円、市
 同中小企業1の特別寄附を
 入ホム、園田宛の屋上
 に太陽光発電パネルによる
 発電所を設けた。これま
 で、発電量は9000kWh
 時で、関西電力1000kWh
 当分の247円で売電。出
 資者は居住者で、1人出
 資は年間3000円の配当
 も実現している。
 昨年10月には同市善法寺
 町の私立善法寺保育園に
 「ひかひか発電所」(5・
 25kW)を設置。発電量は
 6000kWh時で、電気は
 主に園で使っている。園



地球規模で早魃、
 水害、台風など
 温暖化の被害が
 現実となってきてます。
 この後におよんで
 世界一の大量消費国
 アメリカは温暖化防
 止のためのテーブルに
 つかないでいます。
 ニューオリンズなどを
 おとった台風を
 どうしているのか!?

◀ 毎月 05, 11, 26

【ワークタン活動報告】

- 2005・9・10 【違法・密輸入・ラミン材使用停止・取引停止の決議】で、310社が「停止・転換」
- 9・22 ワータン・ラミン調査会、27回日会議、違法ラミン直接輸入数社となり、今後を討議。
- 10・4 『通信ワークタン77号』発行。
- 10・8・19 西岡、マレーシア、インドネシアへ調査、Telapak 同行で、国立公園で違法伐採等確認。
- 10・22 ワータン、ラミン調査会合同会議 28 回目開く。
- 11・6 Telapak(インドネシア NGO)のヤヤット氏の「インドネシアの森林破壊と違法伐採を問う」京都集會をワークタン、ラミン調査会、熱帯林きょうと共催で開く。
- 11・7 ワータン等で作成の『Stop Ramin Campaign2』完成、国際熱帯木材機関理事会(ITTC)で配布、ワークタン、西岡と Telapak のヤヤット氏で。
- 11・8 ITTC で『Stop Ramin Campaign2』と Telapak 6で密輸告発の『The Last Frontier』の CD を各国メンバー、NGO、海外の木材関係者に配布。
- 11・9 39 回 ITTC の 3 日、インドネシア政府が違法伐採材メルバウをワシントン条約に推薦の提案は、大消費国中国、関係国マレーシア、バトナム等の反対意見なし。国際熱帯木材機関理事局よりワシントン条約の保護種ラミン、マホガニーの違法取引停止等の提案。
- 11・10 西岡、Telapak がフェリス女学院で『サラワクの森林破壊、インドネシアでの密輸』を講演。
- 11・10 地球の友 Japan、ワークタン共催で、『インドネシアの森林破壊と森林法』東京集會開く。Telapak が講演。西岡が日本の『ラミン材停止キャンペーン』の報告を行う。
- 11・12 39 回 ITTC で、ラミン、マホガニー材違法停止の決議、メルバウをワシントン条約への決議、その他違法材停止等を盛り込む『06-07 年国際熱帯木材機関取り組み計画』採択。
- 11・12 ワータン、ブラインド製造の世界一のハンター・ダグラス社に『Stop Ramin Campaign2』でラミン材停止を求め送付。
- 11・15 第 5 回アジア森林パートナーシップに参加、西岡、
- 11・29 ワータンで、世界中のハンター・ダグラス社へ『Stop Ramin Campaign2』報告書送付。

違法伐採と闘う～『違法材取引とインドネシアの森林法』

—2010年にスマトラ、2020年にカリマンタンの森が消える—

・【密輸材摘発とこれからを考える】/Telapak(テラパック)

11月6日・京都集会/11月10日・東京集会

主催/ウータン・森と生活を考える会、地球の友Japan、ラミン調査会等

《日本でラミン材使用停止につき、希少種メルバウをCITESに提案》

みなさん。お招きいただき有難うございます。日本に招かれて来て大変うれしいことが新たに出来ました。今回の来日を嬉しく思います。

主催者挨拶のあとで、ウータンの西岡さんからラミン材の停止について報告をしていただきました。ウータンの皆さまを中心にラミンを使用しないよう企業に働きかけていただき、大変成功して、インドネシアの違法材停止の契機の一つになると思えるのです。

ラミンは沼地の森林に生えていましたが、違法伐採等で絶滅の危機となり、私たちを初め多くの環境団体がワシントン条約にするよう、インドネシア政府に依頼しました。ラミンは大半違法伐採され、違法取引や密輸して使用されていたのです。

マレーシア、シンガポールが拠点となり、再輸出され、香港、中国、台湾、日本、韓国、EU、アメリカなどの国々で使用されています。日本ではウータンの皆さんや、多くのNGOの協力で輸入をほぼ完全停止する状況になったことを喜んでます。

昨日はもう1つうれしい出来事がありました。それはラミンについてインドネシアで希少種となりつつあるメルバウについてのことです。11月9日、ITTO(国際熱帯木材機関)の39回理事会で、次回ワシントン条約のCITESⅢへ支持するとほぼ決まったのです。

私たちがITTOに来て資料をウータンと同時に配布し、インドネシア政府の「メルバウをワシントン条約CITESⅢへ提案」ということについて、各国がほぼ賛意したのです。すばらしいことです。森林関連の国際会議でほぼ決まりましたので、来年のワシントン条約でほぼ決議されると思います。だが違法伐採と密輸が続いています。

今日は日本であまり知られていないメルバウ材と、インドネシア全体の違法伐採・違法貿易の問題を中心に話をします。

《メルバウの大半が中国へ密輸》

ビデオを見ていただいたように、インドネシアの西パプアで、メルバウの違法伐採がされ、主に中国へ運ばれています。西パプアのソロン市などへ密売人が集まっています。彼らのボスはマレーシア人やシンガポール人、または中国人なのです。丸太が堂々と中国の上海、南京などに運ばれ、あるものはベトナムへも密輸されています。映像は2004年の撮

影です。丸太の輸出は2001年にインドネシア政府が禁止しているのです。これだけでも違法取引といえます。中国ではメルバウを加工する大きな家具工場がたくさんあります。

西パプアでの伐採の主ターゲットがメルバウという木です。2004年の1ヶ月の最高時は30万m³の丸太の違法な伐採がありました。軍、警察はとても暴力的で監視とはならない。大半は中国です。フローリング加工工場がある南京のほうへ輸出される。ブローカーは主にジャカルタ、シンガポール、香港に住んでいるのです。写真を見ていただいたように中国船、マレーシアの船で、インドネシア資本ではありません。

2005年にメルバウの密輸に対し、逮捕されました。そのうち大半が中国人でした。

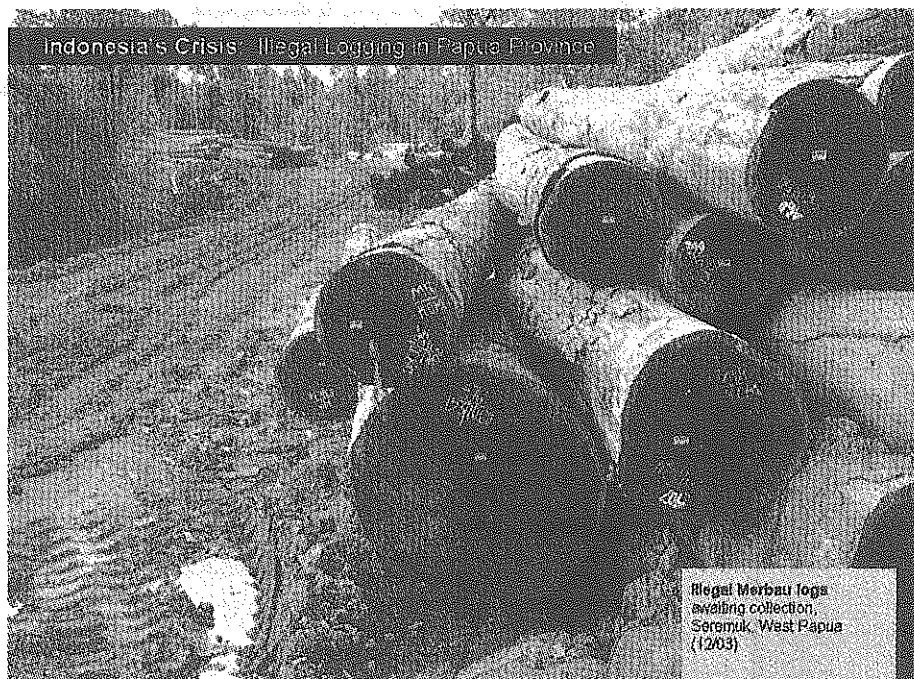
日本では教えていただいたのですが、ガーデンデッキに使われているとのこと。これもウータンで教えていただいたのですが、取引企業は東京を含め約100社とのこと。メルバウを使用しないようにするために、ウータンの皆さまらと相談しているところです。

私たち、テラパックはインドネシア各地で伐採された木材が、どの国で消費されているのかを、イギリスに拠点を持つ環境団体のEIAと合同で調査してきました。密輸されている所はマレーシア、シンガポール、中国、ベトナム、日本、EU、アメリカなどです。

記録の写真は、大量に違法材を運んでいる場合、小船で運んでいる場合、そして国立公園で違法伐採。まとめた代表報告書が『The Last Frontier』、『Profiting from Plunder』、『Timber Trafficking』。

私たちは違法伐採をなくすよう、インドネシアのローカルNGOへのトレーニングもしています。またウータンや地球の友の皆さんらと運動の連携強化をも図っています。

(写真・西パプアでのメルバウ材の違法伐採後の状況/Telapak)



《インドネシアの森林——国立公園で伐採の木材がマレーシア等へ》

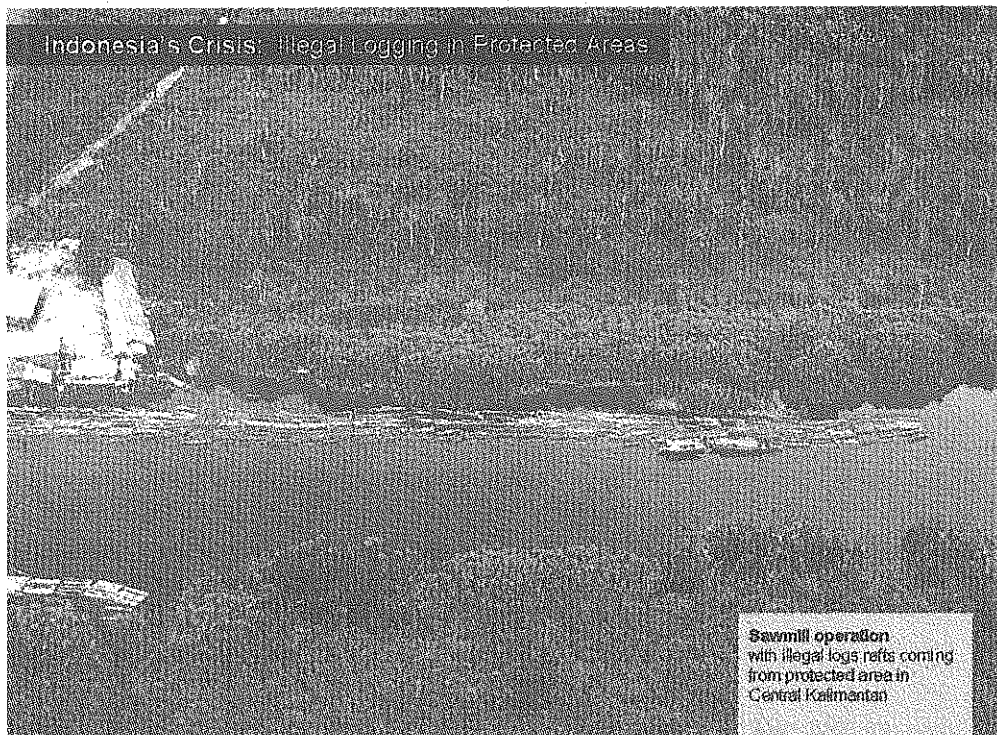
インドネシアの森林についてですが、世界の10%の熱帯林で、森林は1210万haと公式報告されていますが、森林伐採が1998年には160万haであったが、違法伐採で急激に破壊が進んでいます。生物層は植物相が世界の10%、鳥類が世界の17%、動物類が12%、爬虫類が16%を占めているという豊かな森なのです。

違法伐採が80%を占め、森林の破壊による損出は毎年30億ドルにも上ります。世界の森林破壊の1.6%を占めています。1985年から97年の間で160万haの森林破壊が進み、1997-2003年の破壊は380万haになっているのです。このペースで破壊が進行すればスマトラ島で2010年に森が消え、カリマンタン島で2020年に森は消滅します。

違法伐採量は最低でも年間3000-5000万m³にのぼり、火災、土砂流失、失業問題など増えるでしょう。森に依存する人が6千万人もいるので、違法伐採・違法貿易は大きな危機をもたらします。最近では森林を切り所がなくなり、国立公園でも切っているのです。

写真は国立公園での違法伐採の状況、その輸出です。この違法輸出は主にマレーシア、シンガポールが起こしているのです。図を見て分かるように、スマトラ島、リアウからは半島マレーシア、カリマンタンからマレーシア・サラワク州、サバ州へ。西パプアから中国とベトナム等へ運ばれています。またインドやEU、日本、アメリカへも運ばれているのです。密輸、違法伐採は需要側の問題でもあるのです。需要がなければ違法伐採・密輸がこんなに起こりません。

(中カリマンタン・タンジュン・プテイン国立公園での違法伐採/Telapak)



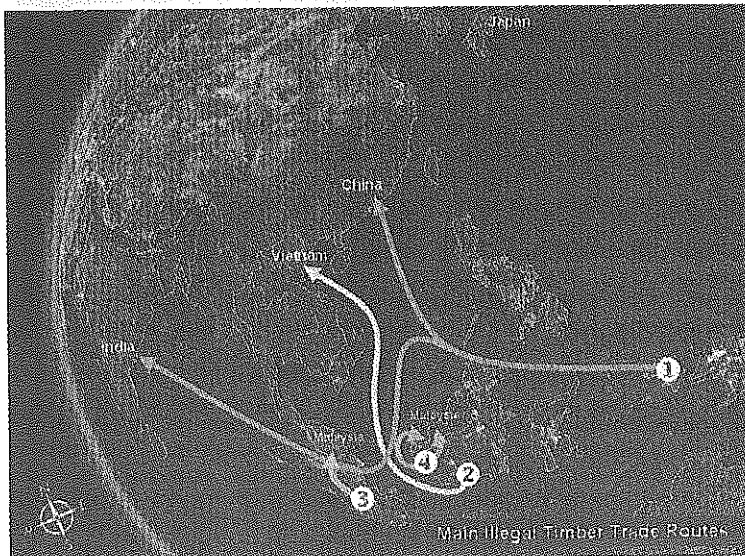
《輸出入報告の大きな差異の問題——大半が密輸》

丸太の取引についてです。2001年にインドネシアでは輸出を禁止しています。しかし、ITTO等のデータです。2004年のインドネシアから中国へ輸出入の例ですが、輸出側インドネシア報告が30m³、それに対し輸入側中国が61,700m³です。インドネシアからマレーシアへの輸出入は、インドネシア報告0m³に対し輸入側マレーシア報告62300m³。いかに差異があるのか、図り方の差だけでありません。明らかに密輸といえます。

インドネシアの製材品は2004年10月に禁止。しかしこれも各国に輸出されています。2004年のインドネシア製材品の輸出入は、インドネシアから中国への輸出報告が15,320m³に対し、中国の輸入報告はなんと106,210m³と大変大きな差異が出ています。日本への製材品輸出のインドネシア報告は3,110m³に対し日本の輸入側報告ははるかに上回ります。

合板のくい違い差も大きい。インドネシアから日本への輸出側報告は178.8万m³、日本の輸入報告は205.8万m³です。日本は最大の輸入量である。この合板についても違法伐採の可能性が高い。それは合法性が証明されていないからだ。日本からも合法のものだけという依頼の情報がないので、インドネシアの企業は合法か違法かを明らかにしていない。2004年のインドネシア国内で合法伐採許可量が600万m³に対し、生産能力が11700万m³とされ、その差が違法伐採、違法貿易の可能性が高いのです。合板材も、国立公園や伐採許可内森林から搬出の木材が加工されています。多い年は年間6000万m³もの木材がどこかに消えている。マレーシア、シンガポール島を通して中国、US、台湾等へ運ばれます。

以前はインドネシアが合板材輸出が1位であったが、2003年よりマレーシアが1位となっている。インドネシアで2001年に丸太輸出禁止となったため、その部分が密輸されて、マレーシアでの生産が増えたのではないだろうか。マレーシア企業は、インドネシア産であるのに偽り、マレーシア産としたことを我々はつかんでいる。全てでないが書類を偽造しているのである。



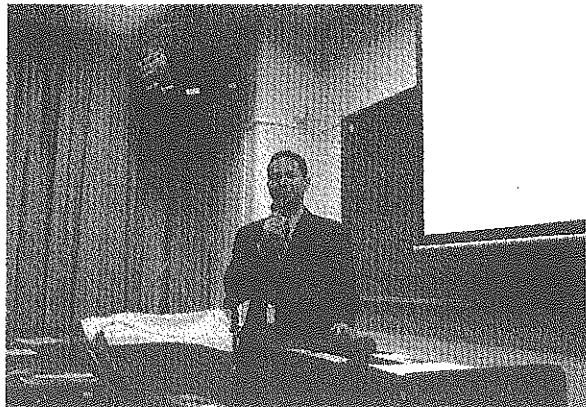
(図)違法材の流れ

《今後の密輸材対策》

密輸・違法材対策として、

- * 輸入側・輸出側の関税の連携、
- * 密輸のボス等悪い奴を捕まえることと、その資金源を断つこと、
- * インドネシアと輸入側のNGO、政府等の連携、
- * メルバウをCITESⅢに提案し決めること(昨日11月9日のITTO理事会でほぼ決まり)、
- * 政府の公共調達について、違法材を使わないことを盛り込む、
- * 認証制度を高めるものにする、(例えばインドネシアの認証機関ともなる BRIK[ブリック]のシステムは、書類はペーパーだけ調べている状態でザルに近い。[11月11日横浜税関等で確認したことはCITESのものが多くの木材に混じらせていたら判明できず、またラミン等と記載ない場合にラミンが違法に輸入されても判明できない・西岡、Telapakのヤットの2名で確認])
- * BRIK等認証機関の改善を働きかける(EUはもっと信頼できるよう改善してほしいと依頼)、
- * 持続可能な森林経営でないから、実施しないなら段階的に輸出の一時停止措置をとり、森林保全を実施すること、
- * 合法材のみを輸出するよう、インドネシアに働きかけること、
- * 消費国でインドネシア材の消費を減らし、違法の可能性が高いマレーシア産材にも合法性確認できた木材のみを輸出するよう働きかけること、
- * インドネシアで輸入禁止の丸太を輸入しないこと(日本は実施)、また2004年に輸出禁止の製材品について日本を始め使用を控える措置を取ること、
- * インドネシア政府は、持続可能な森林経営にするため、伐採後最低でも20年である程度大きくなれるよう育樹して、再度伐採し可能な植林となるよう再植林できる体制をとること、
- * 持続可能な森林経営体制と、その他の収入で地域社会が成り立てるよう対策を立て、実行すること、以上です。

どうも有難うございました。今後もよろしくお願いします。



Telapakより!

《やれば出来る！ラミン材・違法材停止⑨》・・・Hダグラス社停止を

—国際キャンペーン②—11月、世界一の
ブラインド製造会社ハンター・ダグラス
社へ「違法ラミン材使用停止申入れ」！

事務局長 西岡良夫

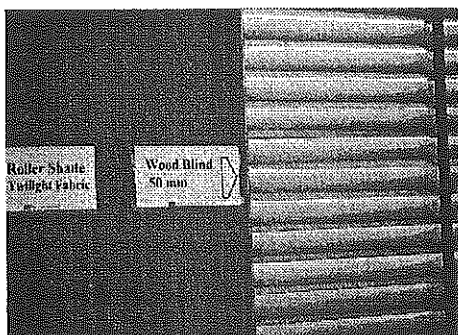


写真)Hunter Douglas社のラミン材ブラインドは、インドネシアから大半輸入し、製造！違法だ！

《CITES を知らないHダグラス General Manager》

前号『ウータン』で Carpenwise 社が「インドネシアからのラミン材輸入を認めた」と書いた。既にウータンは、ハンター・ダグラス社がインドネシア材を使用しているという情報を得ていた。つまり、Carpenwise 社は、ハンター・ダグラス (Hunter Douglas) 社の主要取引者と判明したからである。世界一のブラインドメーカーが今までインドネシア産ラミン材を使用し続けていたのである。アジアに工場があるのは、マレーシア、タイ、そしてインドネシア、フィリピンでも事務所があり取引し、世界中に違法ラミン材を売り続けている。ええ加減にせえよ！

当然ハンター・ダグラス日本もそうである。「密輸ラミン材」か、「違法伐採後の違法取引ラミン材」なのだ！どちらにせよ言語道断！

ウータンは、ハンター・ダグラス日本に質問状を送付。6月に、同社は「停止するかも含め検討する。ラミン材使用・販売の物について、ワシントン条約 (CITES) 証明書を一度手に入れた」という回答だった。大半証明書無しだろう。

それで05年7月に Carpenwise 社の社長と会い、同氏は「ラミンをインドネシア、マレーシアからも買っている」と認めた。私は「もうマレーシアでラミン材は国立公園しか取れない。これは違法だ。インドネシアの場合、ラミン材以外の物も2001年に丸太が輸出停止、2004年に製材が輸入停止で、違法だ」と追求した。

この10月、インドネシアの国立公園で違法伐採の現場を視察。同行の HUTAN Police (森林警察) も運搬業者に違法行動へ警告を出してくれた。その帰りに、予定通りマレーシアによる。

首都クアラ・ルンプールからシャー・アラムのハンター・ダグラス・マレーシア社へタクシーで乗り付ける。責任者不在だが、会えるというので、同社内で30分以上待つ。

「写真を撮っていいですか」と依頼し、「OK」とのことで次々と撮る。左上の写真が物語る。

ジェネラルマネージャーが戻る。私は「貴社のラミン販売先等、ラミン問題につき話したい」という。常務は「このラミン材は Carpenwise 社から。詳しくは別の担当常務に聞いて」と。何とやっばり Carpenwise から仕入れていたと表明。自ら仕入れ先を発言し、認めた。

担当常務のジェームス氏が戻り、話をする。

「Carpenwise 社はインドネシア産ラミンを仕入れています。取引には CITES 証明書が必要です。でないと違法ですよ」と私。

常務は「Carpenwise 社から仕入れている。主な企業だ。それはそうと CITES 証明書でなんですか。(What is the permit of CITES at Ramin?) 取引に必要ですか。」

啞然とする私、、、。

《仕入先が「CITES 書を確認すべき」と常務》

常務が CITES を知らないとは驚きだ。

私はたたみかけて言う。

「ラミンはワシントン条約、つまり生物保護種Ⅱに登録され、原産国の CITES 証明書がないと販売できない。インドネシアでは伐採許可業者も許可量を上回る伐採。違法である。またマレーシアに生えるラミンは保護区、国立公園のみで、許可なしのインドネシア産ラミンが世界に密輸されている。貴社は証明書があるのか。」

General Manager は、完全にうろたえてきた。

「私たちは違法材とは知らない。仕入の企業 Carpenwise 社が CITES 許可書を取って確認すべき。当社は感知しない。ラミンは代替できるか。」

「代替可能。ビーチ、ゴムに変えられる」と私。

「つまり、あなた方はラミン材ブラインドを製造停止してほしいのですか、..」と常務。

「そうだ。後日、日本から資料を送るから読んだらええ。知らぬでは済まない。国際問題だ」と言い、タクシーでダグラス社を後にした。

7月に先に主仕入先で確認し、製造者のハンター・ダグラス・マレーシアで確認した。違法ラミン使用し、国際的にキャンペーンする時だ。

英米の環境保護団体 E I A の申入れに、ハンター・ダグラス社は「CITES 許可書付のラミンである」と、嘘をついていた。事態は明らか。製造元の責任者 General Manager がワシントン条約保護種さえ知らず、チェックもせず製造し、全世界に販売していたのだ。



《39 回 ITTO で再度 CITES 保護種への後押し》

ここまで来たら、国際社会の舞台で知らずべきと考えた。11月の第39回 ITTC (国際熱帯木材機関理事会) や、アジア森林パートナーシップの席等で、ハンター・ダグラスをキャンペーン化するのだ。同じ消費国の責任である。

ラミン材停止キャンペーンの報告書『Stop Ramin Campaign 2』は、国際会議の開始3日前に出来た。国際舞台で大々的に PR する!!

39 回 ITTC (国際熱帯木材理事会) に同行のインドネシア NGO Telapak の報告『The Last Frontier』でメルバウの違法伐採・密輸例も示し、違法伐採・密輸問題を CD でも PR、配布した。理事会で次々と各政府、NGO、木材関係者が報告書、CD を取っていく。CD 等はなくなる。

11月12日、とうとう国際的にラミン材保護の時が来た。そう、9日に ITTO 事務局が[ラミン材保護等]を提案したのだ。勿論反対の声はなし。39回国際熱帯木材理事会で、ラミン、マホガニーのワシントン条約種の保全を可決。

さらに、インドネシア政府が提案したメルバウ材もワシントン条約(CITES)Ⅲに登録する議題も可決。密輸続きのメルバウ材のワシントン条約の決議は決まったも同然。

その日、本社オランダのロッテルダムにあるハンター・ダグラス社に報告書を送付。国際大キャンペーンの開始だ。同国にグリーン・ピース本部もあり、支援してくれると思う。

《ラミンと申告ないと発見できぬ税関》

11月11日、Telapak と横浜税関を訪問。CITES スペシャリストらとの話し合い。

「CITES 種の記載済でも、我々全てがラミンと見分けられませんよ。私でも輸出国からラミンと申告ないと分かりませんよ。今も2月に1回少量輸入があります。ラミンと書いてなくて、そちらの指摘のように、他種記載なら日本ではお手上げ」と専門官。午後、トラフィックのチャン氏の東京税関訪問も同様と情報交換。

やっぱり《企業停止依頼行動》が正解だった。

ITTO(国際熱帯木材機関)は変わった——39回理事会

密輸で激減のメルバウをCITESⅢへ…ITTO理事会で決議

2005年11月7-12日、第39回ITTO理事会が横浜で開かれ、今まで違法伐採、違法取引について積極的に話さなかった各国が、積極的に話し出す。例えば2日目の8日、メキシコからも違法伐採が取り組むべき課題の1つと話され、パナマ、コンゴ、カメルーン、インドネシア、ペルー、インド等。口が重いのはマレーシアだけ。当然だ、違法伐採を告発するTelapakも参加してるから。

日本政府は「ITTOをサポートする。持続可能な森林経営を目指すITTOで、一番重要な取組みが違法伐採・違法貿易問題だ。安い材は違法材を多く含んでおり、合法的な木材取引が強く求められている。政府は、気候変動問題とあわせ違法材対策に取り組むと共に、解決するように取り組む行動をしたい。また、各国が森林法を守ることが重要で、合法的な認証材を扱うことが必要で、日本として合法的な材を扱う取組みの行動を表明する。違法材を放置することは国際的に損失を招き、合法的な材の取引を歪める。我々は違法材をなくすために、FAOやITTOと進めるようにしたい」と。

9日、インドネシア政府が西パプアで密輸が続き減少のメルバウをCITESⅢにITTCに提案。

インドネシア政府は、「メルバウは希少種になってきている。パプア、つまり西イリヤンで違法に伐採され、マネーロンダリングによる密輸が起きている。そのためにITTC(39回理事会)でAppendixⅢに提案できるようにしてほしい」と。それを受けて、アメリカは「違法伐採が地域社会に与える影響が大きいので、ITTCでCITESⅢにできるようメンバー国が協力してもらえればと考える」。PNGは「商業的にも重要だ。希少種メルバウは大変重要で、提案を受けていきたい。」

ITTO事務局から輸入・輸出量の違いについて、説明がされた。

「今も公式な輸出入量の報告について大きな差があり、計り方の違いだけでは説明できない。例えばインドネシアからの輸出丸太や製材品について輸出禁止であり限りなくゼロに近い。しかし輸入国のマレーシア、シンガポール、中国での報告は30万m³から100万m³ほどであり、密輸によるものとも考えられる。マレーシアからの中国、香港への輸出入量の報告を見ても、大きな差がある。」

これらについて討論がされた。EUは「違法材の輸入は正しくない。合法的な材を扱うようEU各国で進んでいる。この点も含め違法取引をなくすためにも、メルバウをCITESにするよう同意する」と。ガーナは「違法伐採はわが国でも大きな問題だ。持続可能な森林経営からの取引を望む。違法取引・違法伐採を止めるのは当然だ。国際社会へ大きくアピールするべきだ」と。

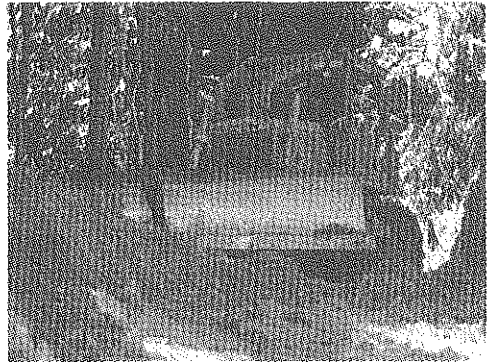
マレーシアから反対の意見もない。他の国の反対もない。

メルバウをCITESⅢにされることはほぼ決まった!!! ウータンで招聘したTelapakがITTOに参加し、各国に圧力をかけたからだ。作戦勝ち! また「違法伐採・違法貿易停止」を主とした『2006-7年のITTO行動計画』も決まった。(西岡)

ボルネオ島に行く ⑭

原生林と先住民の薬草を探して(11)

—新たなプロケード— 東 悪男



小高くなった所から、2分ばかりで米を作る畑に出た。ドグの畑より小さい。

出作り小屋もあるが、あまり寝泊りしないようで、朽ち初めてきている。

「道路建設が起き、道路封鎖したので、やっと3年前から米作りを始めた。戻ろう」とドグ。

初めに登ってきて、伐採道路に合った地点から反対の方へ、私たちは歩いた。藪漕ぎもして歩く。伐採道路を既に樹が蔽ってきていた。

20分歩いたろうか。プロケード(道路封鎖)だ。

「誰が作ったんだろう。最近だ」とドグ。

彼も驚いている。

プロケードが、雨風にあって傷みだしている。ブナン人の象徴のかざりが付けられている。今も道路封鎖を監視しているかのよう、...

翌々日、ドグ、村長や村の人々と、南方の原生林に向かう。みんな久しぶりだそうだ。

私は薬草も調査するつもりだったが、村長が出遅れたので、「今日は薬草調査なし」と伝えた。

村はずれで、ドグが山刀で近くの木の木皮を剥いだ。樹液が出たら、吹き矢に使うのだと。

「これは Tarjung(タージュン)と言い、2、3分で動物が死ぬ強力なものだ。他の種もある。」

薬草調査を諦めた私に、ドグは何かを知らそうとしたのだろうか。

タピオカ畑を抜け、倒木の上に行く。二次林の中に入ると、風が涼しい。程なく行くと、バナナの実がそろそろ出来かけた畑に出作り小屋が見えた。村長が笑っている。

「ここは村長の畑だ。もう20年以上もこの畑を作っている。彼はこの当りに詳しい。」

村長、始めに作り始めた畑はどうしたの。今も使用しているのか」とドグが尋ねた。

「ジャングルの中で、家から遠いので、60年前の畑は今使っていない。この奥に40年ぐらい前に耕し、今も使っている所がある。ある人の情報では、サムリン・ティンバーがそこも伐採権として取得したって言う。」

村長である私に何も言わず、勝手に伐採権を得て樹を切るのなら、泥棒だよ。」

村長がブナン語で言ったことを、ドグが訳してくれた。

先頭が先に行ったので、離れないように私たちは動き始めた。森の民ブナンと同じようなピッチで、スピードを上げたので、しんどい。

小川に出た。ここから原生林が続くそうだ。

川の中をジャブジャブ歩く。膝の上までの渡渉。村長が先頭に行くが、どうも登り口を間違えたらしい。村長はドグに聞いて、違う獣道を探した。

私にはどれが道なのか分からない。日本の山歩きをしていたので、ある程度の道を登れるが、踏跡や獣の跡もない小径を上手く歩けない。

また村長が山刀で木、灌木、蔓やいばらをとりながら進む。急坂に行く。

乗った灌木が腐っていたためか、ボキキと音を立てて木が割れた。私は思い切り股を打った。

「Ite,,」とうづくまる。

村長が水を出す。休めと。

痛みが落ち着いてきて、ドグと村長に「たばこを吸ってよいか」と聞く。「OK」と村長。

「この当たりも獣がいない。果実がなくなつたので、OKということだ」とドグが補足する。

野豚や猿はどんな実を食べるのかと聞くと、メランティ、カポール、ドリアンなどだとドグが答える。この当たりの樹高は約40mあまり。カポール、セランガン・バツという樹が多く、商業用伐採対象となるのだそうだ。

一休みしたので、交代して若者が先頭に行く。村長は、私の歩調にあわせるように、今度はゆっくり登る。依然として急坂。

ダダーン！ドドーッ！

大音響が谷にこだまする。ドグに尋ねた。

「倒木なのか。」

「そうだ。巨木が谷へ落ちたからさ。時々ある。そうして、森が維持されている」と。

フォアアーン、フォアーンと今度はホーンビルが鳴く。倒木でびっくりしたらしい。

「ホーンビル(サイチョウ)はこのあたりで6種類。この鳥も食べたらおいしい」というドグに村長が頷いている。

木漏れ日も差さない森。風が流れる。樹海は何もなかったかのように静まりかえっている。村長らは急坂をスピードを上げて進む。私はしんどくなってゆっくりした歩調に。

村長らプナン人を見失った。

どちらのほうなのか。裸足の彼らの踏み跡を見誤ったらしい。普通なら靴の跡で判るのだが、。

ドグが戻って来て「あっち」と言う。ドグのとおりに登る。他のメンバーは普段どおりの歩調で、先に行ったらしい。

下の源流部の小川から稜線を1時間半登って、やや平坦な所に出た。

「ここがサムリン・ティンバーが作った伐採用道路の跡だ。97年に作った。突然、森にブルドーザーの音が響くと、プナン人が行ったら伐採道路を作ろうとしていたと聞いた。

村長も私もちょうど村にいないで、若いプナン人が入れ替わり立ち代りで、伐採道路へ集まった。2ヶ月近く道路封鎖した」とドグ。

彼は村長に聞いた。

「村長が不在なのに、どうして道路封鎖出来たのか。指揮はどうしたのか。」

「みんなサムリン・ティンバーが違法な道路を作るので、怒ってプロケードした。指揮は交代で、実施したらしい。私は子どもが町で仕事につくというので、ミリ市へ行った」と答える。

私はドグに「どうしていたか」と尋ねた。

「あの時、新しい畑を作り始めていて、村に戻って参加しようか迷っていたら、伐採道路建設中止となったと聞いたんだ」とドグ。

遅い昼食を始める。午後1時を廻っていた。

原生林の中の伐採道路は、多くの草や灌木で蔽われていた。風がそよぐ。

昼食を終え、若者について行く。稜線部をまた登る。もう1つの地点でもプロケードしたからだ。

なぜもう1箇所でしたのかと聞くと、若者は「企業も作業しにくいようにするためだと、当時のリーダーが説明したんだ」という。

小高い所に立つ。

見ればプナン人のマークのプロケードがあった。8年前なのになぜか、朽ちずに残っていた。

「ここは監視するため、手入れしているんだ」と若者が答えた。

彼らにとって、ここはまだ新しいプロケードなのだ。森や畑を守る精神的支柱なのだろう。



(写真/サラワクでプナン人の道路封鎖)

世界の森林ニュース

05年8-11月

by 西岡

【ITTCでメルバウをCITESへ提案】

11月7-12日の39回国際熱帯木材機関で、インドネシア政府の「密輸続くメルバウ材をワシントン条約へ」との提案を、NGO監視の元で、反対無しで可決!!その他、ラミン、マホガニーの違法取引止めるよう行動提起も採択。06-07年行動計画の重要項目の違法取引関連も決議。(ITTCで)

【5回AFPで木材供給システム等提案】

11月13-15日、AFP(アジア森林パートナーシップ)会議で木材の合法性確保の提案、インドネシア、シベリアの違法伐採への対応等論議。近年中国が最大輸入国と。

【中国、違法伐採組むと公約も、】

05年9月5日、北京で第8回EU・中国首脳会議が開催。中国は温家宝國務院総理ら、EU側からはブレア英国首相らが出席。共同声明で「アジア地域における森林の違法伐採への対応」等を謳う。なお中国林業局の張副局長は、「天然林保護プロジェクト実施以後、国内の木材供給不足の一途」と。2000年の国内木材供給不足は3,600万m³で、2004年には1億900万m³に拡大し、2015年に中国の木材需要量は4億8,000m³見込み、供給不足は1億9,000万m³と予測。([illegal logging news]等)

【EIA、USがホンジュラス森林破壊指摘】

環境団体EIAは、ホンジュラス原生林材がアメリカに大量輸入と指摘。(EIA)

【ウータン、Hダグラスのラミン停止へ】

8月、国連欧州経済委員会(UNECE)と国連食糧農業機関(FAO)は2004-2005年の林産物市場動向概要を発表。「EUの多くの国で違法伐採材割合は合法伐採の1%以内(?)。森林認証等の環境配慮の購買活動も広がる。オランダ本社の世界一のブラインド企業ハインターダグラスは、違法ラミンを世界に販売。ウータンは「Stop Ramin Campaign2」を同社に11月12日送付。違法材停止求める。

【Gピース、アマゾン材の9割違法指摘】

11月14日、グリーンピース・インター等は、「アマゾンで生産された木材の9割が違法伐採による」と指摘。(GPより)

【中国木材企業、ビルマで違法伐採】

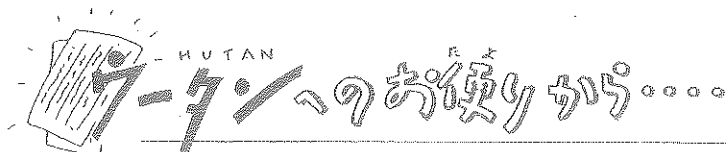
10月1日、Global Witnessは、中国の木材企業がビルマ北部の原生林を違法伐採し、密輸を続けていると指摘。このままでは約10年で消滅と。([illegal logging news])

【神奈川県、県産間伐材利用拡大へ】

11月4日、神奈川県は県産間伐材を鋼製ガードレール部材にも利用と。その他にも利用を現地で確認。(J-Ficニュース等)

【環境省、環境税を全て温暖化対策へと】

10月25日、環境省は環境税の具体案発表。税率炭素1t当たり2400円、3700億円税収を森林整備、省エネ促進等温暖化対策に全て使用と。財界の反発強まる(環境省)



by. 藤村はるえ

《会費、カンパを頂いた方々》 (2005年9月29日~2005年12月8日) (敬称略)
伊東真吾 伊東万千子 井上真 上田広子 春日直樹 助友伸子 田村美智子 島山誠子
服部隆志 深町加代子 福田教 細川弘明 水田哲生 望月敏子 柳下恵子 山田光一
湯川れい子 由良行基 渡辺裕文 (ありがとうございました)

《切手を頂いた方》 田中順子様

《おたよりから》 (敬称略)

☆継続は力なり。

10/21 (水田哲生)

☆違法伐採・密輸ラミン材など丁寧な地道な活動の成果も少しずつ出ているようですね。

息の長い活動をこれからも続けて下さい。(後略)

10/31 (望月敏子)

☆ (前略) いつもウータンの集会は小人数ながら中身の濃い内容で、お手伝いできてうれしく
思います。(後略)

11/9 (柳下恵子)

楽しくエコロジー、気軽に国際協力！

『ピープル・ツリー』 買い物で世界を変える

発行 フェアトレードカンパニー / グローバル・ヴィレッジ

今回は、通販カタログの紹介です。ウータン読者なら
「知ってる」という方も多いでしょう。

エコも我慢ばかりじゃしんどい。お買い物を楽しみ、
人にも、地球にもいい、欲張りなカタログ。

アジアや中南米などの、女性・ストリートチルドレン・
小規模農民等の自立を支援するため、フェアトレード(公
正な取引)で輸入する、環境にいい製品です。

有機無農薬コーヒー、チョコレートなどの食品、小物、
ビーズ、手編みセーターや帽子、バッグなどなど、見るだ
けでも楽しい。

綿栽培に使う農薬はものすごい量。チョコレートのカカ
オ農園では、何万人ものこどもが奴隷労働をしています。
なんとかしたいですね。

オーガニックなコットンやチョコを選ぶことで、ちょっ
ぴり世界をかえませんか？

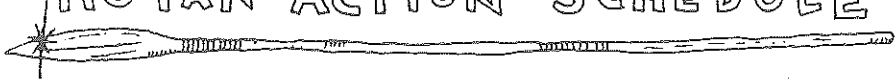
TEL 03-5731-6672

www.peopletree.co.jp

E-mail tushin@peopletree.co.jp



HUTAN ACTION SCHEDULE



'06年度ウータン総会!

・'06年度. ウータン活動方針を話し合います。

2/4(土) 午後 1:30~4:30 (その後、夕方 打ち上げ会 予定!) Pm. 6:00~8:00

【とこ】 きんき環境館(近畿環境パートナーシップオフィス)

Tel. 06-6940-2001

【アクセス】 京阪, 地下鉄「天満橋」下車, OMMビル5F(中央エレベーター)

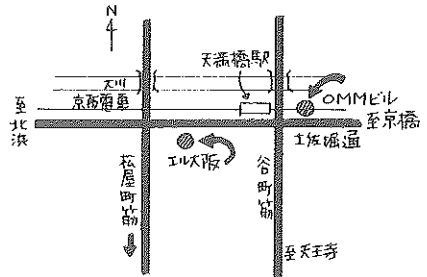
2/8(水) 午後 12:00~5:00

【とこ】 エル大阪

Tel. 06-6942-0001

【アクセス】 天満橋下車, 土佐堀通りを西へ5分

※ それでは 皆さん 良い年をお迎え下さい。来年もよろしく!(ウータン同)



ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

・ホームページ

www.005.upp.so-net.ne.jp/ 「関西市民連合」気付
hutan/ Tel.06-6372-1561

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880



◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。